



第18回厚生政策セミナー
2013年10月31日(木)
女性就業支援センター

国際人口移動の新たな局面
「日本モデル」の構築に向けて
New trends in international migration
Towards a Japanese model

問題提起

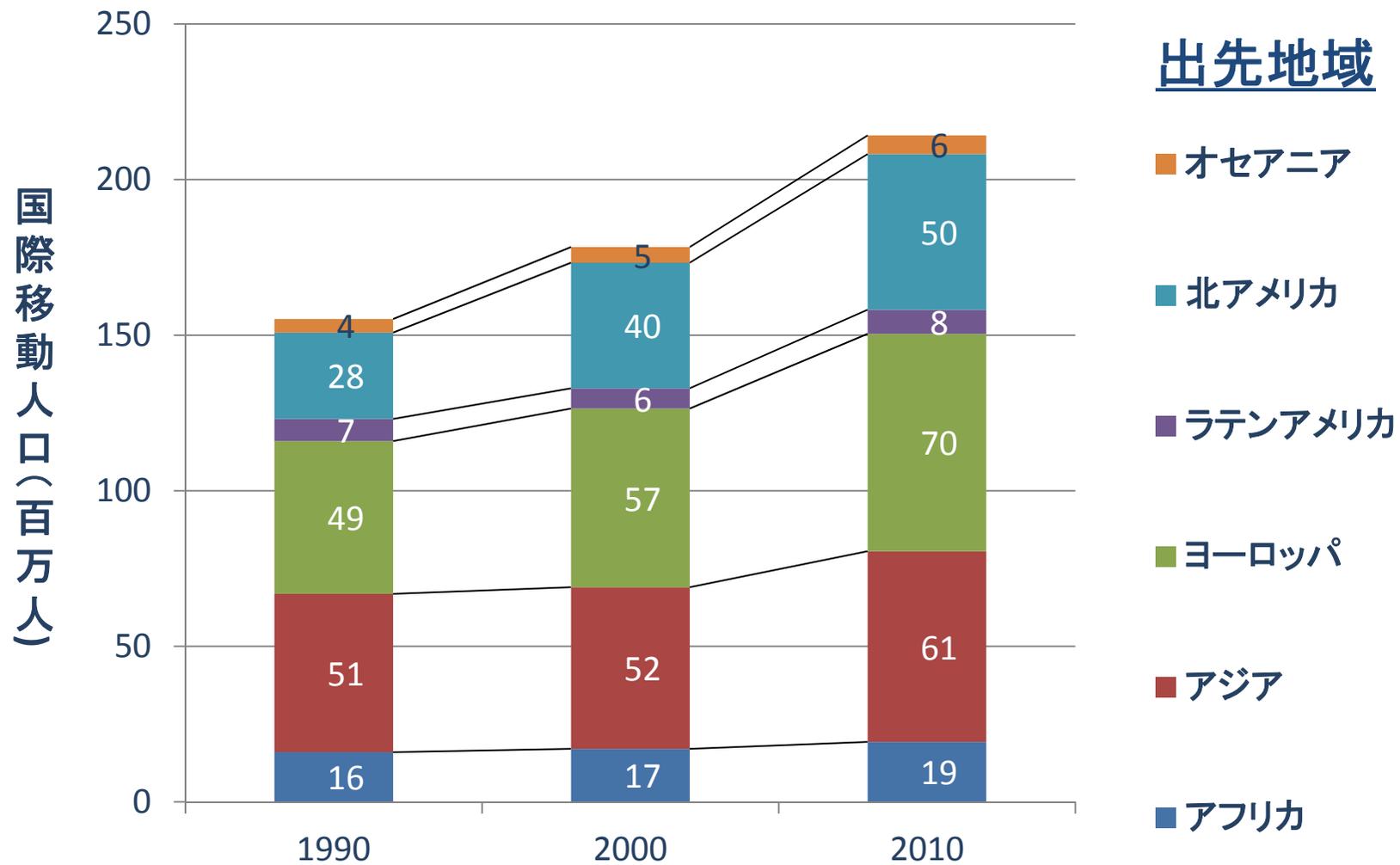
国立社会保障・人口問題研究所

林玲子

1 国際人口移動の潮流

- 世界と日本の対比 -

世界の国際人口移動の増加 ⇒ヒューゴ先生



Source : United Nations, Department of Economic and Social Affairs (2012). Trends in International Migrant Stock: Migrants by Destination and Origin (United Nations database, POP/DB/MIG/Stock/Rev.2012). <http://esa.un.org/MigOrigin/>

近年の国際人口移動の特徴

- 総数は着実に増加
- 女性も男性同様に国際移動している
- 還流移動(日本でいうUターン、Jターン)、短期移動、Urban Rural Linkageといった移動元と先の有機的な結びつき
- 途上国→先進国だけではなく、すべての方向への移動、地域統合による移動の活発化
- 国際移民による仕送り額が援助額を超えており、帰国民による技術移転など、途上国経済開発効果にも注目→2008年には国連決議A/RES/63/225
- 一方で頭脳流出、自国に雇用機会が少ないことによる「強いられた移出」に対する懸念もある

国際人口移動の理論・モデルはどこまで有効か？

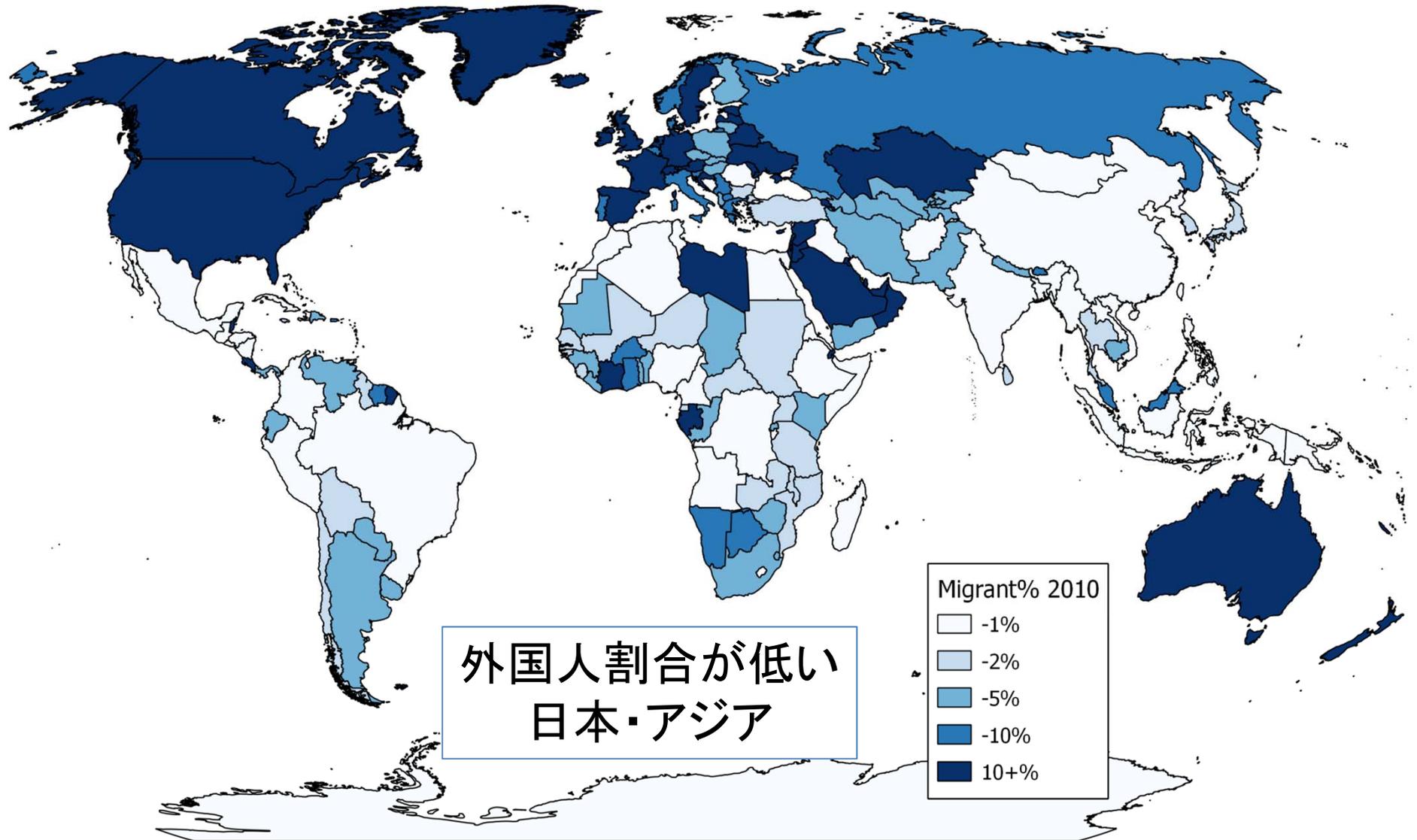
おもな理論 (Massey, et.al 1993; 河野2005)

- ・「新古典派の経済理論」:
賃金や就業可能性などの国際格差が移動の主因
- ・「二重労働市場に関する理論」:
3K労働などの下位の市場で、外国人労働者の需要が発生
- ・「世界システム理論」:
グローバリゼーションの進行により、世界の国境を越えた移動が活発化
- ・その他、「新家族経済学の理論」、「ネットワーク理論」、etc.

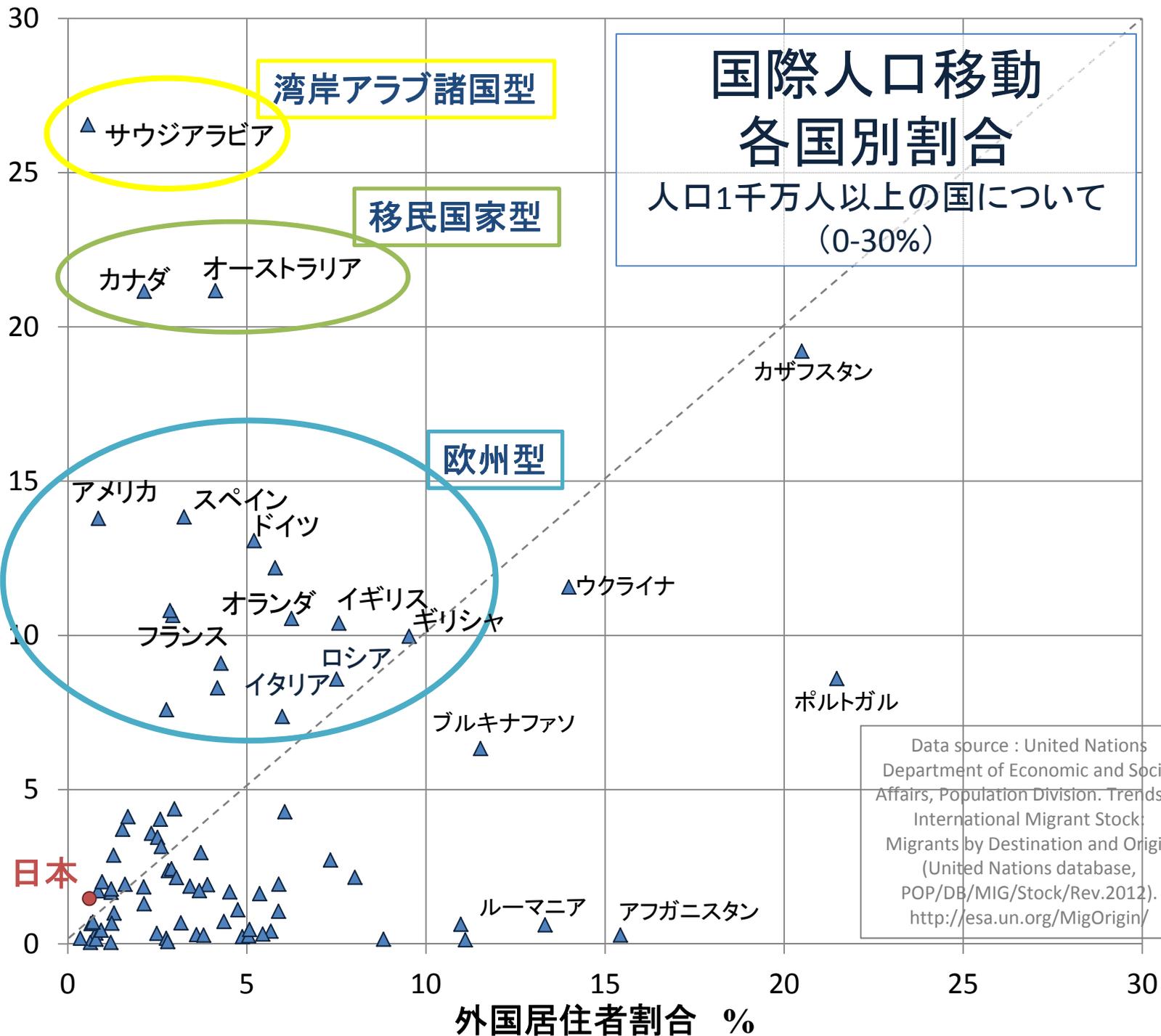
人口モデル (ヴァンデカー2002; 石川2005; Coleman2006)

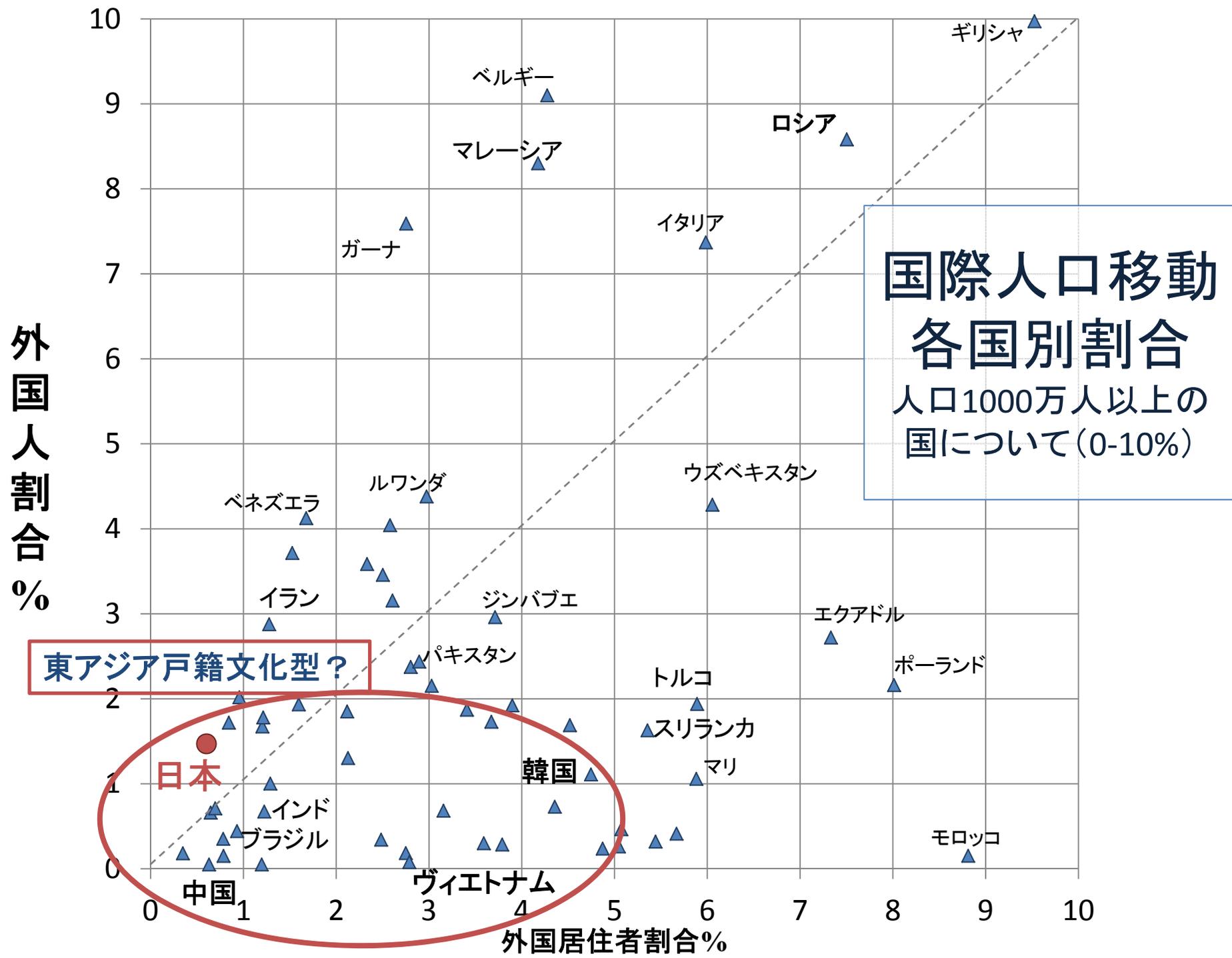
- ・「国際人口移動転換」:
経済発展・社会変化などで、国際人口移動が転出超過から転入超過へ
- ・「第2、第3の人口転換」:
出生率が低下、転入超過は増加 → 他民族の増加、民族構成の変化

外国人割合(2010)

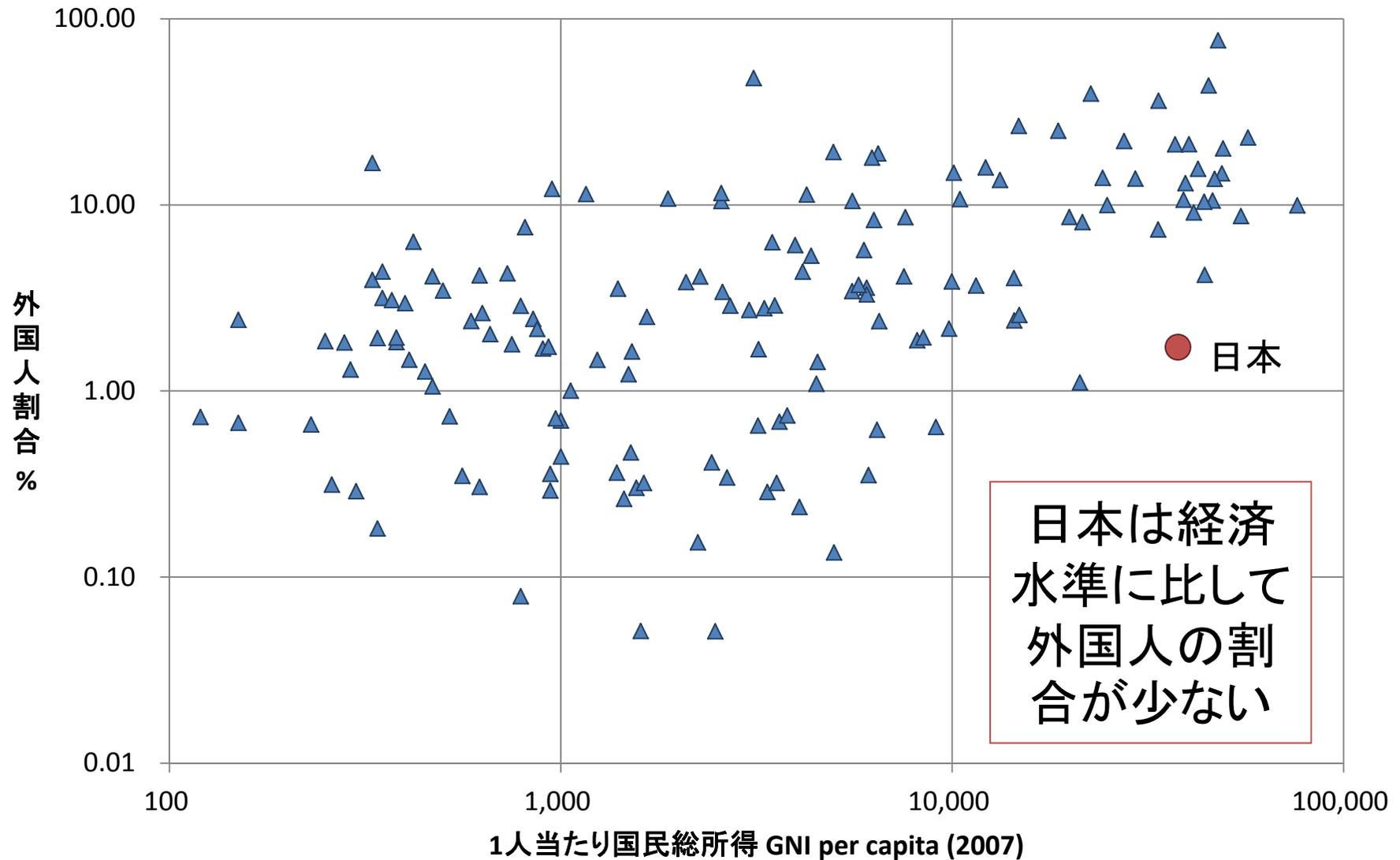


外国人割合 %



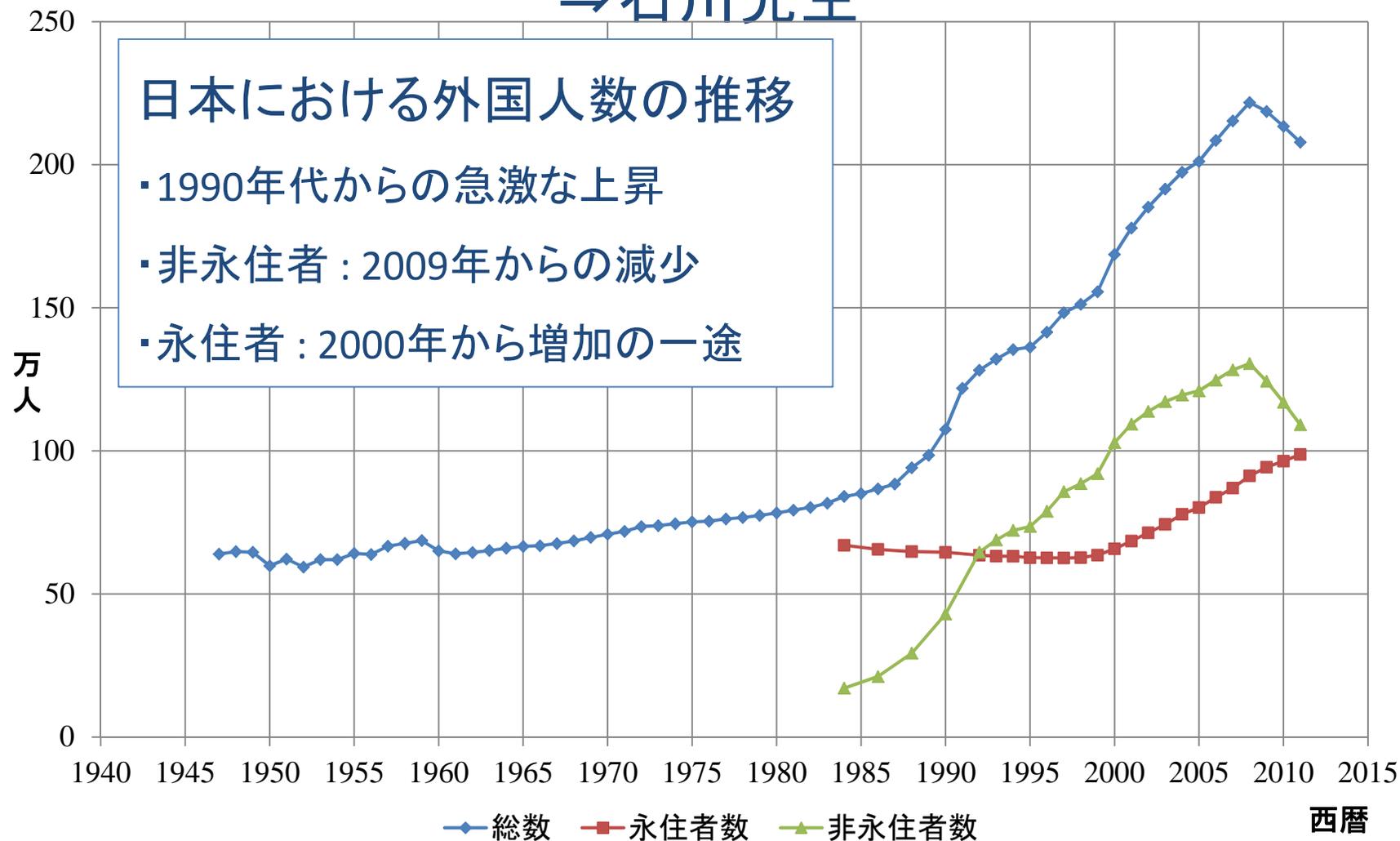


経済水準と外国人割合(各国)



2 日本における国際人口移動 の諸様相

世界的な国際人口移動のトレンドにおける 日本の位置づけ、及びその特徴はどのようなものか？ ⇒石川先生



日本における労働力移動の 特徴と課題は何か？

特徴

- 労働力不足を補う単純労働者の受け入れ否定と、知識労働者の受け入れ推進
- 日系人への「定住者」資格の付与や、技能研修生の受け入れ条件の緩和
- 「島国型」の厳格な入国管理制度の存在

課題

- 知識労働者受け入れの推進
- 定住外国人に対する社会統合政策の不在

日本における労働を目的としない移動の特徴と課題は何か？

- 非労働目的移動の把握の困難性
- 実質的には就労している定住者（日系ブラジル人）、研修生、留学生
- 少ない家族呼び寄せ
- 国際結婚の2007年からの減少
- 少ない難民受け入れ
 - 新規難民認定件数：18人（2012年）
 - 人道的配慮による在留許可：122人（2012年）

制度面から見た日本における 外国人の社会統合の特徴と課題は何か？

特徴

- 研修生に対する職業、家族生活、長期居住に関する著しい機会の制限
- 一時滞在者から永住者への資格変更が諸外国と比較して長い
- 国籍取得における血統主義や二重国籍の禁止
- 一貫した社会統合政策の不在

課題

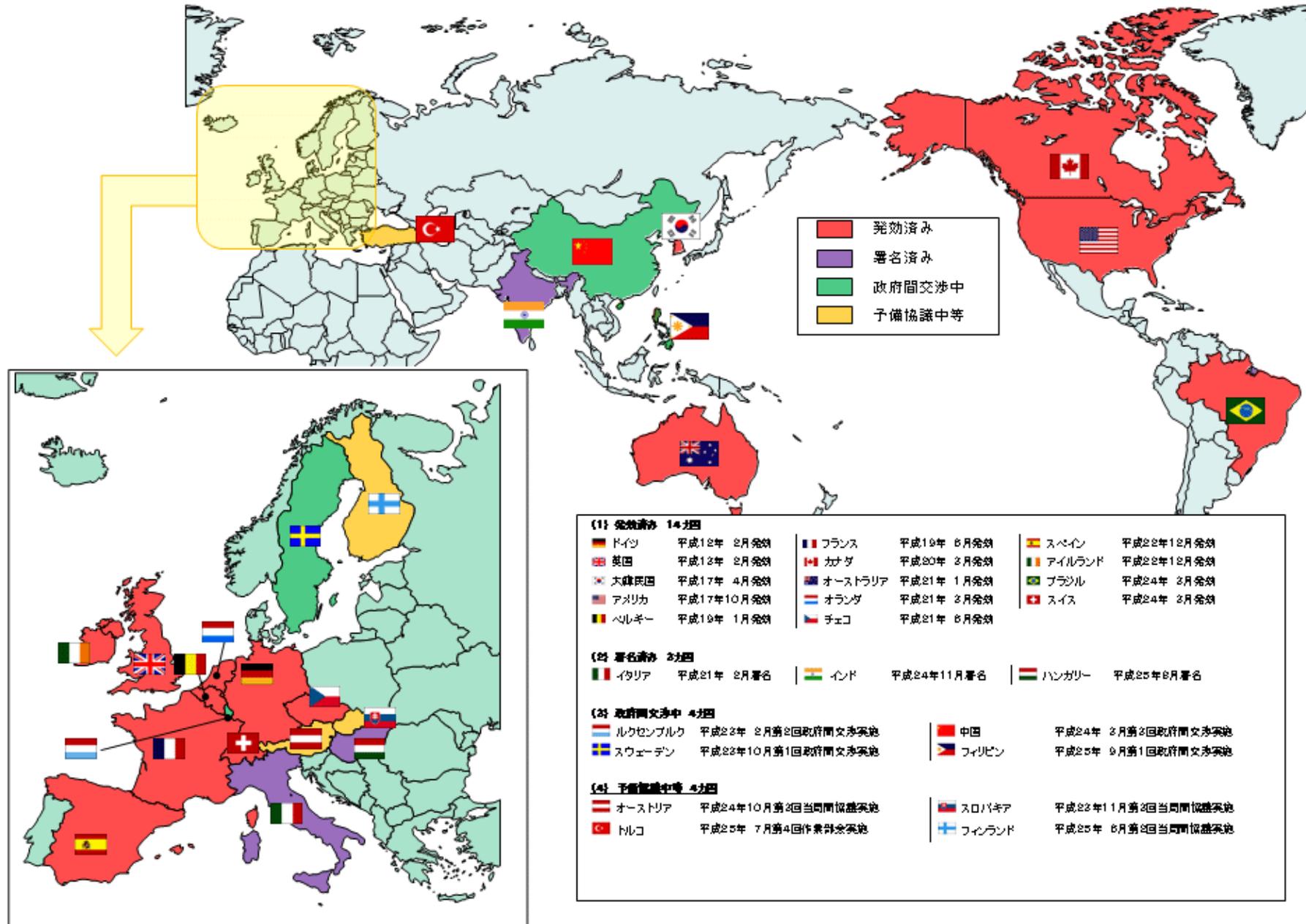
- 労働市場、及び教育における統合政策の実施
- 人種、民族に関する差別の防止

外国人に対する登録・社会保障制度

- 国連人口開発委員会決議(2013/1)にて、外国人に対する教育、保健、社会サービスの充実を謳う。
- 必ずしも適切でない現在の加入状況
 - 低い加入率→厚生年金・組合健康保険
 - 高い外国人割合→国民健康保険(2.4%)、生活保護(3.0%)
- 多くの新規施策
 - 外国人の住民登録(2012年7月～)
 - 年金受給資格期間を25年から10年に短縮(2012年8月～)
 - マイナンバー制度(2016年1月～)
 - 社会保障協定の広がり(現在14カ国+署名済み・交渉中11カ国)
- そもそも戸籍、住民登録といった、登録制度がある日本では、外国人登録も「頑丈」。これをもとにスマートかつ適切な外国人に対する社会サービスの普及を図れば世界に誇れる制度となるのではないか。

社会保障協定の締結状況

2013年9月17日現在



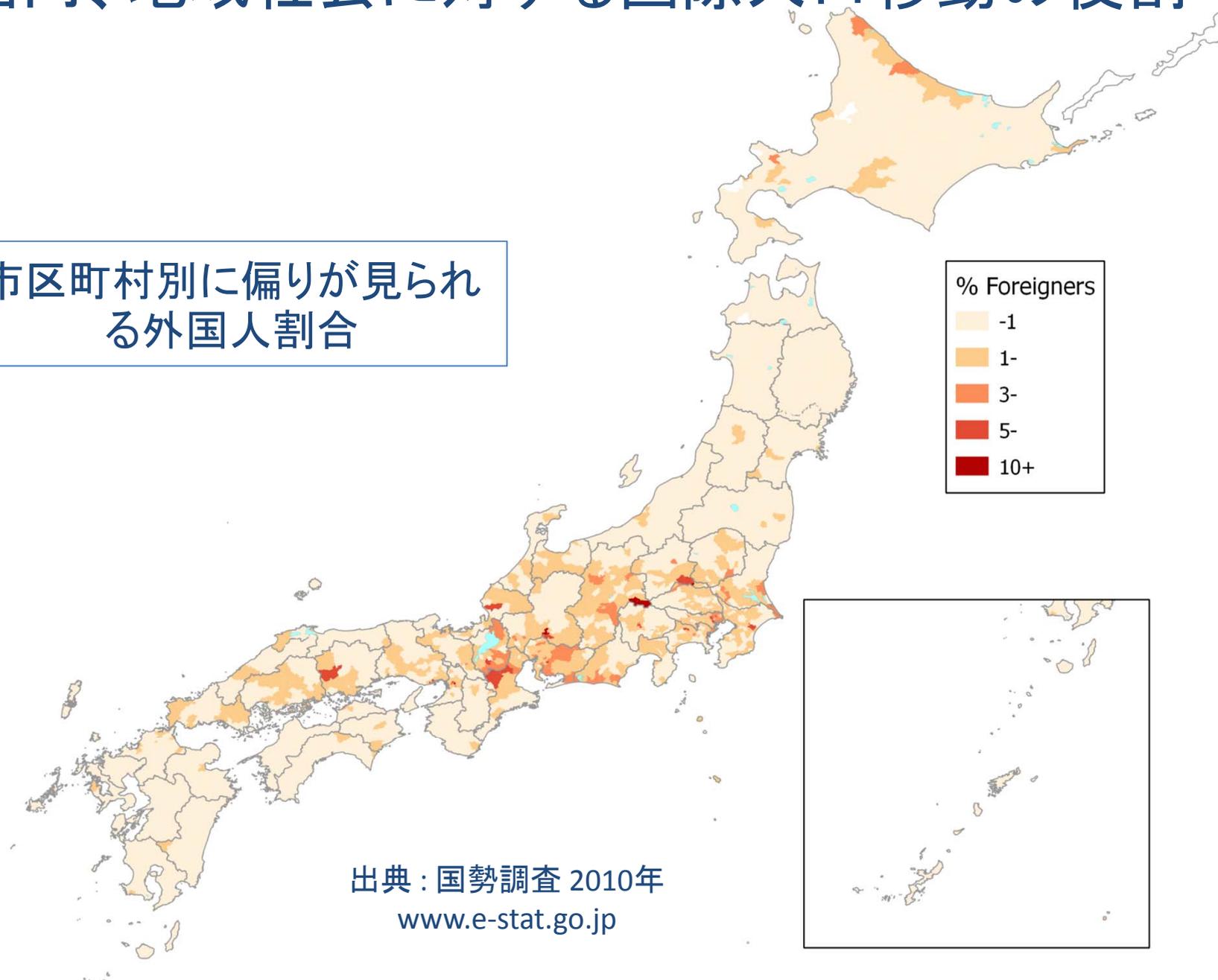
出典 : <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/nenkin/nenkin/image-shakaihoshou-gaiyou4.html>

歴史的視点からみた 日本社会と国際人口移動 ⇒ 鬼頭先生

- 日本列島への複数の人口移入と定住（縄文人・弥生人、渡来人）
- 19世紀末から20世紀中頃にかけての「海外移民」とその定住化
- 第二次世界大戦中・前の旧植民地をめぐる国際人口移動
- 1980年代後半以降の日本における外国人人口の増加とその定住化

国内、地域社会に対する国際人口移動の役割

市区町村別に偏りが見られる外国人割合



高齢化・人口減少の地域社会で、国際人口移動・外国人が果たしうる役割は？⇒石川先生

外国人の多いおもな地域
関東から京阪にかけての本州中央部
・・・サービス業、工業などが盛ん

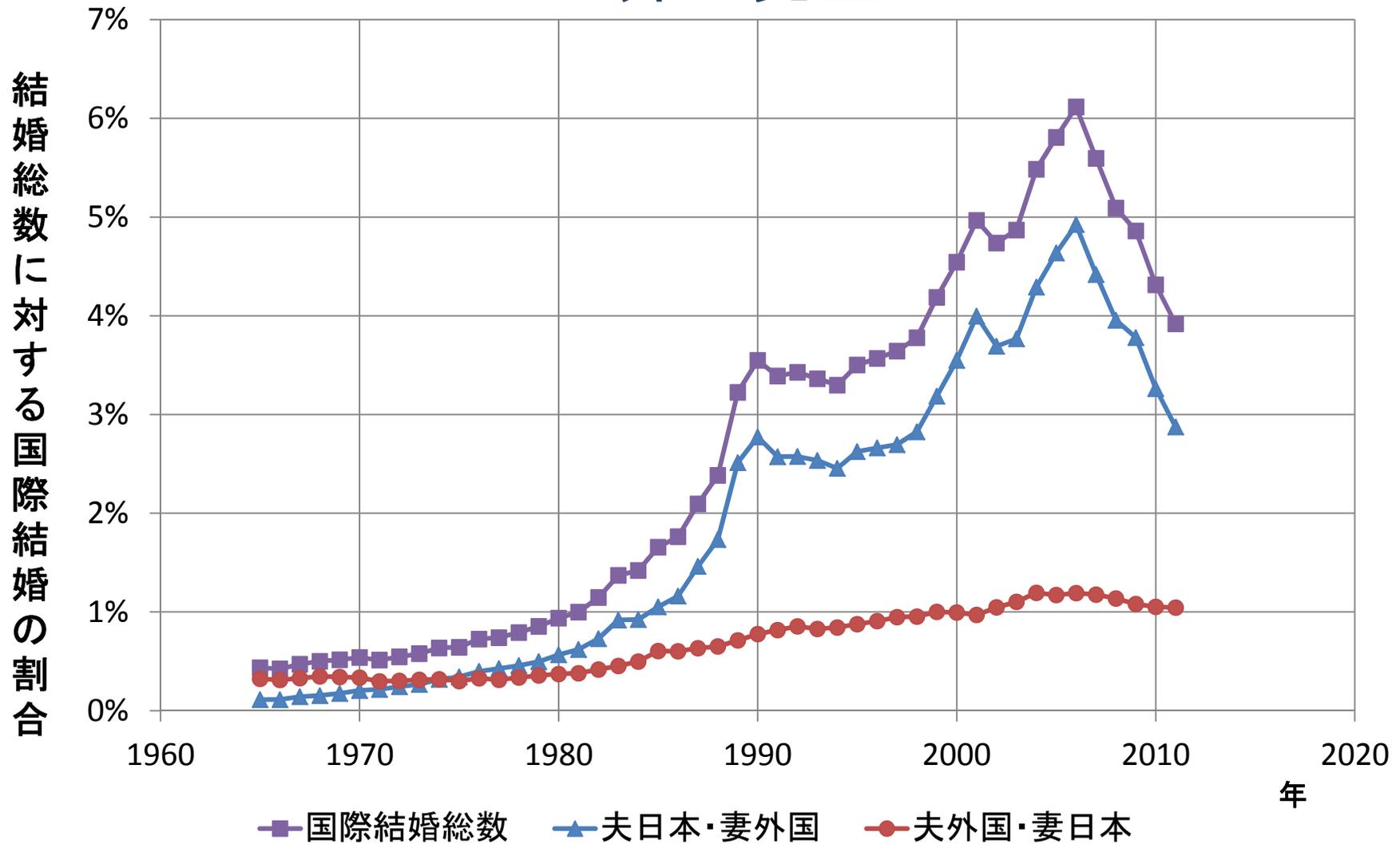
⇒ 一般に高齢化・人口減少率は低い



- ・非都市地域 = 高齢化・人口減少はすでに進行
- ・都市地域 = 今後、人口は減少、高齢者数が急増

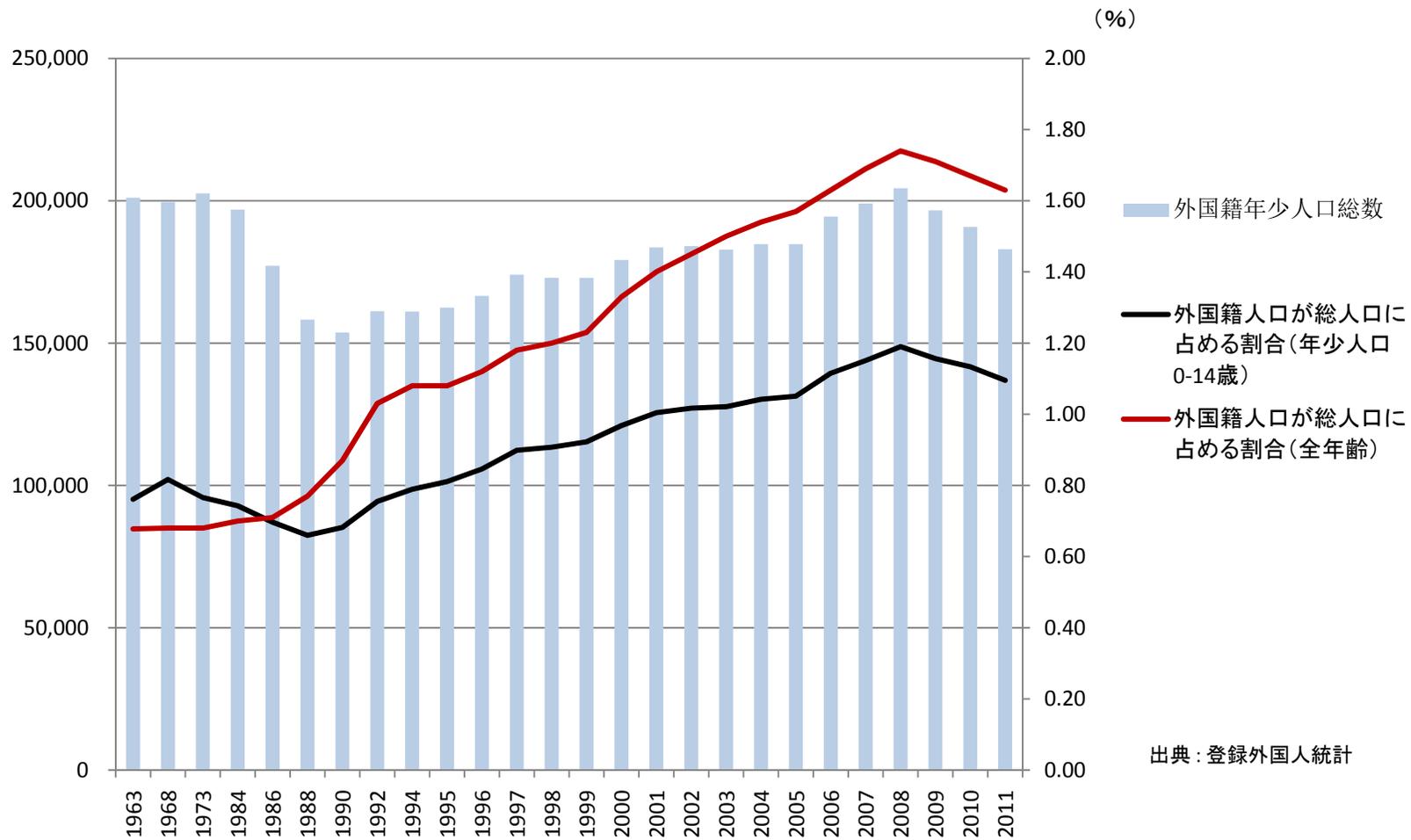
⇒ 各地域社会で外国人人口がどのような役割を果たしうるか？

日本における国際結婚の動向 ⇒井上先生



出典：厚生労働省人口動態調査

年少人口(0-14歳)の外国人登録者総数、 総人口に占める外国籍人口の割合



外国籍の子どもに関わる課題

- ・学習面（不就学、義務教育終了後の進学）
- ・日本語能力（日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査（平成15年度～））
- ・健康保険加入状況

このような問題は、外国籍の子どもが多い地方自治体で指摘されているが、実態を把握する全国レベルのデータが収集されていない。

3 国際人口移動の日本モデル (日本型国際人口移動)とは ～今後の展望

そもそも国際人口移動は管理可能なのか？
⇒明石先生

- 移民はそもそも管理可能か？
⇒世界各国における移民政策における意図せざる結果の増大 (Cornelius et al. 2004)
- 「1990年体制」の成立後の日本
⇒日本の入管政策の現実のかい離 (明石 2010)
- 未完成な公共政策としての移民政策
⇒OECD等による各国政策のレビューの開始

国際人口移動の日本モデルとは？

- 日本の外国人割合は経済水準に比して低いが、移民国家（アメリカ、カナダ、オーストラリア）や欧州諸国（フランス、ドイツ、イタリアなど）とは国の成り立ちや歴史背景も違う。日本語という独自性もある。
- 「補充移民」によって人口減少を完全に食い止めることは非現実的であり、実際に経済危機・地震の影響などで来る人も減少している。
- 着実に受け入れて、医療・教育・社会保障といった基本的行政サービスをスマートに行い、日本語教育も含め、来てくれる人々がうまく定着してくれるような制度づくりが必要。